

川上地域まちづくり協議会

みんなの力で 地域づくり

川上地域では、まちづくり協議会の設置によって、一つの事業が単発で終わらず、さまざまな人がかわりを持ちようになり、連携がより強くなりました。その代表的な事業が「みんなで作るまちづくりカレンダー作成事業」です。合併前には、健康推進のカレンダーで行政が先導する形で作成でしたが、協議会の取り組みとなつてか

らは、テーマの検討、掲載文の作成、挿し絵の手配、レイアウトに至るまでを地域代表、学校福祉団体、商工観光団体から選出された作成委員が行っています。

これにより、健康推進だけでなく、地域内外のまちづくり事業全般・各種検診日程・ゴミ収集日・学校行事などをカレンダーに盛り込みました。事業のPRと積極的参加・事業開催日の重複防止を図るなど地域全体の掲示板としても活用できるよ

地域の情報が詰まった
まちづくりカレンダー



うになり、見やすさも手伝って非常に好評となつています。本年度版は、挿し絵の部で地域内の小学生にも参加してもらい、より親しみやすいものとなりました。

もう一つは、マンガ絵ぶたまつりです。川上地域を代表する事業でしたが、以前は、ま

全員参加のまちづくり

川上地域まちづくり協議会は、地域住民皆さんの意見が取り入れられやすく、また事業効果がまんべんなく行き渡るよう、地域協議会代表はもちろん、商工会・観光協会・女性団体・老人会・PTA協議会などまちづくりに関連する団体の代表の方を委員としています。



川上地域
まちづくり協議会
会長 浅野一彦さん

これは、全住民がまちづくり事業にかかわりを持ち、本事業が豊かな暮らしづくりに役立っていることを実感していただける仕組みづくりを行うためです。

これにより各事業において、それぞれが何らかの役割を担い「自分たちのまちは自分たちの手で創る」という意識高揚につながることを目指しています。

つりに対して絵ぶたの制作グループ以外のかかわりが薄く、

地域全体の盛り上がりは今ひとつでした。

まちづくり事業として取り組み始めてからは、制作グループへの各地域協議会長の激励訪問や、運営会議への参画、さらには、まつりを通じて川上地域出身者の会との交流活動の実施など、まつりを核とした多方面への広がりを見せ、さまざまな面での連携が図られるようになりました。



地域全体で取り組む「マンガ絵ぶたまつり」

備中地域まちづくり協議会

都市の若者との 交流事業

備中地域まちづくり協議会は若者の地方体験交流事業を行っています。これは大都市圏で暮らす大学生らが、専門的知識等を地域の中で考え直したり、自らの見聞を広める機会を得るものです。さらに、農村生活体験を通して地域の人たちと意見交換をすることなどで、地域づく



研修で深まる学生との交流

りに役立てていくことを狙いとしており、今年で2年目の取り組みです。

昨年度は、京都の大学に通う3年生・男女2人が8月2日から17日間滞在しました。農家に宿泊しトマトやピオーネの農作業、イベントの手伝い、デイサービスセンターでの交流、西山高原レジャー施設での接客など、さまざまな体験をしました。研修最終日には、学生らがこうした体験を通じて感じたことや地域活性化のための提言をする報告会も行われました。

秋には祭りや備中神楽を見るために学生らが再訪し、夏にお世話になった農家の方々はもちろんのこと地域住民からも盛大な歓迎を受け、彼らにとっても備中が第2のふるさtoになったようです。

短期間の研修ですが、外部の人が地域に入ることで地域は一時的ながらも元気になります。農村を全く知らない学生から見

た地域への提言はとても新鮮で、改めて田舎の良さを再発見することにもなっています。

今年度は関東の学生4人を農家で受け入れ、昨年とは違う地域での交流も行いました。

今後も毎年、研修・交流を行い、継続することで、備中地域を都市部から応援してくれる備中ファンが一人でも多く増え、こうした都会に住む人たちの定期的な交流や情報交換が互いの刺激となり、地域の活力を生み出す足がかりになればと考え

さらなる活力の創出と交流を



備中地域
まちづくり協議会
会長 村上隆義さん

合併後の急激な変化を避けながら新市としての新たなまちづくりを進めていくことが大切です。

しかし、住民主体の活動は、これまで築き上げた地域文化や人間関係を壊すことなく前向きに取り組んでいけるサポート体制が必要です。

備中地域まちづくり協議会では、住民主体で行われるこれまでの事業を支援しながら、さらなる活力の創出と交流を広げ地域の活性化を図っていきたくて考えています。



研修後行われる学生らによる報告会

ています。